

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院学生研究
2021年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 文学 研究科 ドイツ文学 専攻		
研究代表者 (2022年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年		氏名
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年 <input type="checkbox"/> 博士後期課程 6年		宮島 章子
指導教員	所属部局・職名		氏名
	立教大学大学院文学研究科 教授		井出 万秀
自然・人文・社会の別	自然 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 人文 ・ 社会	個人・共同の別	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題	ボードマーによるミルトン『失樂園』ドイツ語翻訳にみる文体的特性		
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2022年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名
	文学研究科ドイツ文学専攻 博士課程後期課程6年		宮島 章子
研究期間	2021 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

ヨハン・ヤーコプ・ボードマーは、ジョン・ミルトン『失樂園』の翻訳を1732年から1780年の間に6版出版し、その都度改訂している。スイス特有の書きことばを重要視したボードマーの言語理論は、この翻訳作品においてどのように反映されているのだろうか。本研究は、この『失樂園』翻訳をボードマーの文学・言語理論実践の場と捉え、各版を比較しどのような改訂がなされたかを詳細に分析することにより、ボードマーの言語理論の実践について究明するものである。アーデルングの辞典を用いて、地域性、歴史性および文学性の3つの視点で語彙を検証した結果、1732年版において最も多くの語彙が地域性を示すことを確認した。地域性および歴史性は、版を重ねるごとに大きく減少する一方で、文学性を持つ語彙は1769年版で最も多く見られた。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ヨハン・ヤーコプ・ボードマー] [『失樂園』ドイツ語翻訳] [18世紀のドイツ言語理論]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

『失樂園』の翻訳により、著者ミルトン (John Milton, 1608-1674) の名をドイツ語圏に定着させたのは、スイス人文学者ヨハン・ヤーコプ・ボードマー (Johann Jakob Bodmer, 1698-1783) である。ボードマーは、その生涯にわたり、自身の翻訳に度重なる改訂を加え、出版は計 6 版にのぼる。スイス特有の書きことばを重要視したボードマーの言語理論は、この翻訳作品においてどのように反映されているのだろうか。本研究は、この『失樂園』翻訳をボードマーの文学・言語理論実践の場と捉え、各版を比較しどのような改訂がなされたかを、特にその語彙の地域的特性に着目して詳細に分析することにより、ボードマーの言語理論の実践について究明するものである。本研究の目的は、次の 3 点に集約される。1) 各版の差異を明らかにする、2) ボードマーの翻訳における語彙の文体的特性 (地域性、歴史性および文学性) について検証する、3) ボードマーの翻訳作品における文学・言語理論の実践を検証する。

ボードマーは、文学理論に関する論文を数多く発表し、文学史の中でも啓蒙主義的、合理的な立場で知られるドイツ人文学者ヨハン・クリストフ・ゴットシェート (Johann Christoph Gottsched, 1700-1766) と対抗する勢力の一人である。それ故、ボードマーに関する研究は文学理論に関わるものが大部分を占めており、言語学的な見地からの取り組みは少ない。なお、ボードマーによる『失樂園』のドイツ語翻訳に関する研究は、これまでに、原典である英語テキストとドイツ語翻訳との比較分析、ボードマーの複数の版における正書法の変化、翻訳改訂の概観をまとめた論文などが挙げられる。

まず、ボードマーの翻訳テキストにおける改訂の変遷について、ミルトンによる原典を基に予備分析を行った。ミルトンの原典第 1 章の冒頭から文章が句切れる箇所にあたる 105 行目までのテキストを各版から抽出し、その修正箇所を形態、統語および語彙の三つのレベルにおいて分類し数量化した。その結果、第 2 版 (1742) において約 250 箇所の修正が行われ、最も大きな改訂がなされており、次いで第 5 版 (1769) での改訂が多いことが明らかになった。また、それぞれ形態、統語、語彙の観点から分析した結果においては、語彙に関する修正が最も多いことを明らかにした。語彙に関する改訂の例としては、ミルトン版 57 行目の失意 (*dismay*) という語を、初版では *Machtlosigkeit* とし、第 2, 3, 4 版では *Schwachheit* とし、残りの版では *Unvermögen* と翻訳している。このような語彙に関する修正が極めて多く、105 行の中に約 200 箇所も存在することは注目すべき点である。予備分析の結果から、本研究では語彙に着目し、分析対象を第 1 版 (1732)、第 2 版 (1742) および第 5 版 (1769) とした。

続いて、ボードマーの翻訳作品における語彙の地域的特性を検証するために、同時代にドイツで出版された他の『失樂園』翻訳と比較分析を行った。エルンスト・ゴットリーブ・フォン・ベルゲによる翻訳 (1682)、ユストゥス・フリードリヒ・ヴィルヘルム・ツァハリエによる翻訳 (1762 / 1763)、そしてザムエル・ゴットリーブ・ビュルデによる翻訳 (1793) をボードマーの作品と比較分析したところ、1732 年版では分析した語彙の約 70% がドイツで出版された他の翻訳作品における語彙と異なり、版を重ねるにつれてその数は減少した。

その後、アーデルング『高地ドイツ語方言の文法的・批判的辞典』、グリム『ドイツ語辞典』およびチューリヒ歴史・考古学会編『スイスドイツ語辞典』を用いて、語彙の文体的特性の検証を行った。語彙の地域性 (*diatopisch*)、歴史性 (*diachron*) および文学性 (*diastratisch-diaphasisch*) の 3 つの視点において検証した結果、1732 年版において最も多くの語彙が地域性を示すことを確認した。地域性を示す特徴的な語彙の例として *bevorab* が挙げられる。ボードマーは原文の *chiefly* を第 1 版において *bevorab* と訳し、その後地域的特徴を持たない語彙 *vornehmlich* に修正している。アーデルングの辞典は、この *bevorab* という語彙は上部ドイツ語では一般に用いられるとしており、グリムの辞典においてもその地域的特徴について言及されている。歴史性を示す語彙の例としては、1742 年版に見られる *heiliglich* と

研究成果の概要 (つづき)

いう語彙が挙げられる。アーデルングはこの語彙を古い上部ドイツ語の形容詞とみなしている。詩的な語彙の例としては、原本における *gate* に対応する語彙として 1732 年版で用いられている *Pforte* が挙げられる。アーデルングの辞典には、この語彙は上部ドイツ語で用いられ、高尚で詩的な文体においては、大きく豪華な扉に対して用いられると記述されている。このようにボードマーが各版で用いた語彙を検証した結果、地域性および歴史性を示す語彙は、版を重ねるごとに大きく減少する一方で、文学性を持つ語彙は 1769 年版で最も多く見られた。

語彙の文体的特性は、地域性、歴史性などの特性をひとつだけ示す語彙もあれば、地域性および歴史性、地域性および文学性、あるいは歴史性および文学性といった複数の特性を有する語彙もある。複数の文体特性を示す語彙がどの程度用いられているかを検証したところ、全体的には減少傾向にあり、文学的特性のみを示す語彙が増加していることがわかった。とはいえ、複数の特性を有する語彙のうち、詩的特性を併せ持つ地域的語彙および歴史的語彙は、1742 年版で一度減少したものの、1769 年版で僅かではあるが増加している。このことから、複数の文体特性を示す語彙においては、文学的であることが重要な要因となっていることを明らかにした。

同様の分析を、ベルゲ、ツァハリエそしてビュルデ版においても行った。この三つのドイツ語翻訳の中では、ベルゲ版が最も高い地域性を示しているが、それと比較しても、ボードマーの第 1 版における地域的特性を示す語彙の数は倍以上であり、非常に多いことがわかった。出版年を鑑みて、1682 年に出版された最も古いベルゲ版において語彙の歴史性は際立っているが、ボードマーの第 1 版の方がさらに高い値を示している。詩的特性を示す語彙に関しては、ほぼ出版年に対応しており、ベルゲ版において最も少なく、1793 年に出版されたビュルデ版においてその語彙の数は最も多いことを明らかにした。なお、地域性・歴史性を示す語彙を抑え、文学的な語彙を多く取り入れたボードマーの 1769 年版と、ツァハリエ版およびビュルデ版は類似傾向にあることが見出された。

ボードマーは友人であるツェルヴェガー宛ての書簡(1754)に「第 1 版はスイスの、第 2 版はドイツ的、第 3 版は詩的な翻訳である」と述べているが、本研究の結果は、このボードマーの見解を語彙の面から裏付けている。つまり、1732 年版は高い地域性を示すことからスイス的であるといえ、また、1769 年版は明らかに詩的である。そして地域的語彙が減少した 1742 年版はドイツ的であるといえるだろう。ボードマーの言語理論の一つである「スイス方言の高い評価」および「スイス方言の豊かさは古い語彙に由来している」という見解は、1732 年版において実践されているといえる。翻訳論として、ボードマーは自身の著作『風習を描く画家 (*Der Mahler der Sitten*, 1746)』において、作品自体の理解を通して「ドイツ語特有の美しさ (*wesentliche Schönheiten*)」を備えた語彙を用いることを論じている。さらに翻訳者は原文の内容を理解するだけでなく、翻訳言語によるわかりやすい表現を用いるべきであると述べている。また、1754 年版の序文において、「表現の詩的な美しさ」を通して、より豊かな翻訳にすることを改訂の目的の一つとしている。ボードマーは、これらを実現するために、版を重ねるごとに詩的な表現を強化し、より文学性を高めた改訂に取り組んだのではないかと推測される。なお、地域性を示す語彙であっても詩的であるという条件を併せ持つことで新しい版においても用いられていることが判明した。以上の結果から、ボードマーは自身の翻訳作品の改訂において、翻訳理論を実践するために、語彙の地域性よりも文学性を優先したことを明らかにした。

※この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて研究成果報告書提出フォームより提出してください(紙媒体等、研究成果報告書提出フォームから提出できない場合は、別途リサーチ・イニシアティブセンターへ提出してください)。

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

※修士論文・博士論文は含みません。

④ その他

- 1) Ayako MIYAJIMA: Lexikalische Mehrdimensionalität in Bodmers Übersetzungen von Miltons „Paradise Lost“.
[10. PRAGESTT in Prag, 2021 年 3 月 11~13 日, カレル大学, プラハ (チェコ)]
- 2) Ayako MIYAJIMA: Lexikalische Mehrdimensionalität in Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. Germanistische Linguistik: Forschungs-kolloquium Frühlingsemester 2021.
[フリブール大学コロキウム 2021 年 5 月 7 日, フリブール (スイス)]
- 3) Ayako MIYAJIMA: Lexikalische Mehrdimensionalität in Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. Germanistik: Forschungs-kolloquium Frühlingsemester 2021.
[立教大学大学院コロキウム 2021 年 5 月 7 日]
- 4) Ayako MIYAJIMA: Regionalität in Johann Jakob Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. Von der diatopischen zur diastratischen Profilierung. Germanistik: Forschungs-kolloquium Herbstsemester 2021.
[立教大学大学院コロキウム 2021 年 11 月 26 日]
- 5) Ayako MIYAJIMA: Regionalität in Johann Jakob Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. Von der diatopischen zur diastratischen Profilierung.
[スイス文学会研究発表 2022 年 3 月 18 日]